

【 復活のトロパリ 第4調 】

しゅのおんなでしはふくかつのひかるおと  
主女弟子 復活の光音

づれをてんしよりききうけえて、  
天使 聞き受

げんそよりのていざいをふるいすて、しと  
原祖 定罪 振棄 使徒

にほこりていえり、しはほろぼさ  
誇 曰 死 滅

れ、ハリストスかみはふくかつして、せかいに  
神 復活 世界

おおいなるあわれみをたまえり。  
大 憐 賜

【 大齋前の主日コンダク 第6調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、  
光 榮 父 子 聖 神 歸

いまもいつもよよにアミン。  
今 何時 世 世

えいちをたまい、ぜんちをあたうるしゅ、  
睿 智 賜 善 智 與 主

むちのもののきょうどうし、まづしきものの  
無 智 者 教 導 師 貧 者

ほごしゃたるしゅさいよ、わがこころをか堅  
 保護者 主宰 我 心 堅

ためてさとらしめたまえ、ちちのことば  
 悟 給 父 言

よ、なんぢわれにことばをあたえたまえ  
 爾 我 言 與 給

え、けだしみよ、わがくちはもださずして  
 蓋 視 我 口 黙

なんぢによぶ、じれんなるしゅよ、われおちい  
 爾 呼 慈 憐 主 我 陥

りしものをあわれみたまえ。  
 者 憐 給

【 聖三の歌 】

代禱) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>けいけん</sup>敬虔なる<sup>もの</sup>者を<sup>すく</sup>救い、<sup>およ</sup>及び<sup>われら</sup>我等に<sup>き</sup>聆き<sup>たま</sup>給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
 主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。  
 等 聆 給

代禱) <sup>よよ</sup>世世に、

アミン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
 聖なる神、聖なる勇毅、聖  
 じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
 常生者我等を憐  
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖なる神、聖なる勇毅、聖  
 なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常生者我等を憐  
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖なる神、聖なる勇毅、  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 常生者我等を憐  
 れめよ。こうえいはちちとこせいしん  
 光栄は父子聖神  
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸今何時世世  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 常生者我等を憐  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖なる神、聖なる勇  
 き、せいなるじょうせいのものよ、われらを  
 聖常生者我等を

あわれめよ。  
憐

【 提綱 (プロキメン) 大齋前の主日 第8調 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>しゅなんぢら</sup> プロキメン、<sup>かみ</sup> 主 爾 <sup>ちかい</sup> 等の神に <sup>な</sup> 誓 <sup>つくの</sup> を作して 償えよ、

しゅなんぢらのかみにちかいをなしてつくの  
主 爾 等 神 誓 作 償  
えよ、

誦經) <sup>かみ</sup> 神は<sup>し</sup>イウデヤに<sup>そのな</sup>知られ、<sup>おおい</sup> 其名は<sup>おおい</sup>イズライリに 大なり、

しゅなんぢらのかみにちかいをなしてつくの  
主 爾 等 神 誓 作 償  
えよ、

誦經) <sup>しゅなんぢら</sup> 主 爾 <sup>かみ</sup> 等の神に

ちかいをなしてつくのえよ、  
誓 作 償

【 使徒經 (アポストロス) 112 端 ロマ書 13 章 11 節~14 章 4 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒<sup>じん たつ</sup>パウエルが<sup>しよ</sup>ロマ人に<sup>よみ</sup>達する書の讀、

代禱) <sup>つつし</sup> 謹 <sup>き</sup>みて<sup>き</sup>聽くべし、

誦經) <sup>けいてい</sup> 兄弟よ、<sup>いま</sup> 今は我等が<sup>はじ</sup>初めて<sup>しん</sup>信ぜし<sup>とき</sup>時に<sup>くら</sup>較ぶれば、<sup>すくい</sup> 救 <sup>さら</sup>は更に我等に<sup>ちか</sup>近し。<sup>よるす</sup> 夜過ぎて<sup>ひる</sup>晝

ちか ゆえ われらくらやみ おこない のぞ こうめい よろい き われらひる あ ごと  
 邇づけり、故に我等昏昧の行を除きて、光明の甲を衣るべし。我等晝に在るが如  
 く、<sup>おこない うるわ</sup>行を美しくすべし、<sup>とうてつおよ ちんめんこうしょくおよ じゃし そうとうおよ しつと</sup>饕餮及び沈湎好色及び邪侈、争闘及び嫉妬すべから  
 ず。<sup>すなわちなんぢら わ しゅ</sup>乃爾等は我が主イイスス<sup>き</sup>ハリストスを衣よ、<sup>にくたい おもんばかり よく へん なか</sup>肉體の慮を慾に變ずる勿  
 れ。<sup>しん よわ もの いけん なじ</sup>信の弱き者は、意見を詰らずして之を納れよ。<sup>これ い けだしあるひと およそ ものくら しん</sup>蓋或人は凡の物食うべしと信  
 じ、<sup>よわ もの やさい くら くら もの くら もの あなど なか くら もの くら もの</sup>弱き者は野菜を食う。食う者は食わざる者を藐る勿れ、食わざる者は食う者を  
<sup>ぎ なか けだしかみ かれ い なんぢ なんびと たにん ぼく ぎ かれ おのれ</sup>議する勿れ、蓋神は彼を納れたり。爾は何人にして他人の僕を議するか、彼は己の  
<sup>しゅ まえ た あるい たお かつかれ た けだしかみ これ た よく</sup>主の前に立ち、或は倒る。且彼は立てられん、蓋神は之を立つるを能す。

\*\*\*\*\*

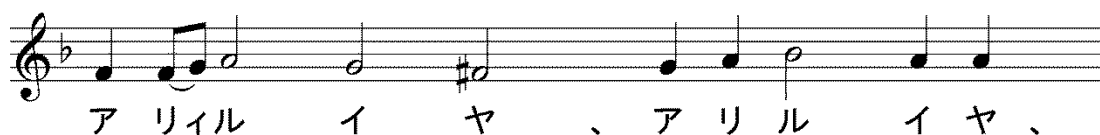
(比較用 口語訳) 今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。信仰の弱い者を受けいれなさい。ただ、意見を批評するためであってはならない。ある人は、何を食べてもさしつかえないと信じているが、弱い人は野菜だけを食べる。食べる者は食べない者を軽んじてはならず、食べない者も食べる者をさばいてはならない。神は彼を受けいれて下さったのであるから。他人の僕をさばくあなたは、いったい、何者であるか。彼が立つのも倒れるのも、その主人によるのである。しかし、彼は立つようになる。主は彼を立たせることができるからである。

\*\*\*\*\*

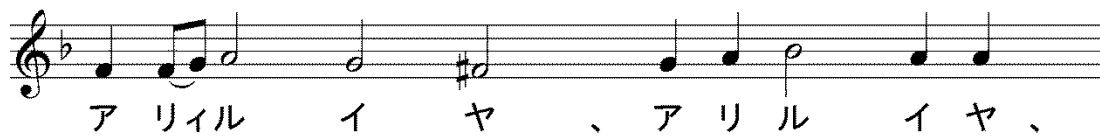
【 アリルイヤ 大齋前の主日 第6調 】

代禱) <sup>えいち</sup>睿智、

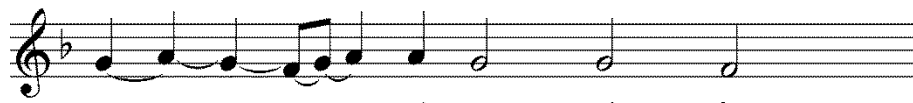
誦經) <sup>なんぢ しん</sup>爾の神にも、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、



誦經) <sup>しじょうしゃ しゅ さんえい なんぢ な うた び かな</sup>至上者よ、主を讚榮し、爾の名に歌うは美なる哉、

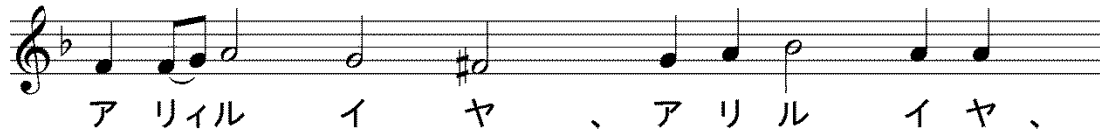


ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



ア リル イ ヤ 。

誦經) <sup>なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな</sup> 爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、

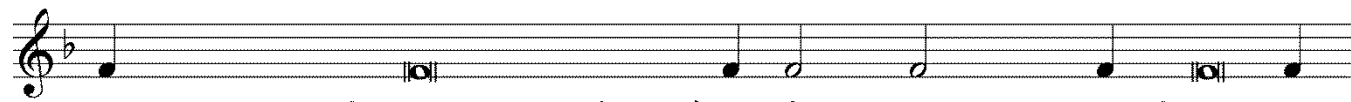


ア リル イ ヤ 。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 17 端 6 章 14~21 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>でん せいふくいんけい よみ</sup> ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。  
爾 歸

誦經) <sup>つつし き しゅい も なんぢらひと そのあやまち ゆる なんぢら てん ちち なんぢ</sup> 謹みて聴くべし、主曰えり、若し爾等人に其過を免さば、爾等の天の父は爾

<sup>ら ゆる も ひと そのあやまち ゆる なんぢら ちち なんぢら あやまち ゆる</sup> 等にも免さん、若し人に其過を免さずば、爾等の父も爾等に過を免さざらん。

<sup>またなんぢらものいみ とき ぎぜんしゃ ごと うれ さま な なか けだしかれら そのものいみ ひと</sup> 又爾等齋する時、偽善者の如く憂わしき容を爲す勿れ、蓋彼等は、其齋の人

<sup>あらわ ため かおいろ そこな われまこと なんぢら つ かれら すで そのむくい う なんぢ</sup> に顯れん為に、顔色を損う、我誠に爾等に語り、彼等は已に其賞を受く。爾

<sup>ものいみ とき こうべ あぶら おもて あら なんぢ ものいみ ひと あらわ ひそか ところ</sup> 齋する時、首に膏ぬり、面を洗え、爾の齋の人に顯れずして、隱なる處

<sup>いま なんぢ ちち あらわ ため しか ひそか かんが なんぢ ちち あらわ なんぢ むく</sup> に在す爾の父に顯れん為なり、然らば隱なるを鑒みる爾の父は顯に爾に報

なんぢら ため ため ち つ なか ここ しみ さび そこな ここ ぬすびとうが ぬす  
いん。爾 等の爲に 財 を地に積む勿れ、此處には 蠹と 錆と 損 い、此處には 盗 穿ちて 竊

すなわちなんぢら ため ため ち つ なか ここ しみ さび そこな ここ ぬすびとうが ぬす  
む。乃 爾 等の爲に 財 を天に積み、彼處には 蠹も 錆も 損 わず、彼處には 盗 穿ち

ぬす けだしなんぢら ため ち つ なか ここ しみ さび そこな ここ ぬすびとうが ぬす  
て 竊 ます。蓋 爾 等の 財 の在る 處 には、 爾 等の 心 も在らん。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。  
は 爾 に 歸 す。

※代式祈祷③へ